

## 福 祉

### 1 指導計画の作成

指導計画の作成に当たっては、地域や福祉施設、産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努める必要がある。また、各科目の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図り、学習の効果を高めるようにする必要がある。

#### (1) 科目「介護福祉基礎」2単位の指導計画（例）

月	単元（ねらい）	指導項目	指導のねらい	時数	留意事項
4 5 6	(1) 介護の意義と役割 ○人間の尊厳を支える介護、自立に向けた介護について取り扱い、介護の意義と役割について理解させる。	1 尊厳を支える介護 ※1 2 自立に向けた介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護の意義や目的、役割について理解させる。</li> <li>人間としての尊厳を保持するための介護の在り方や必要性、その課題について考えさせる。</li> <li>ノーマライゼーションや国際生活機能分類（ICF）などを取り上げ、サービス利用者の自己決定や個別化など自立に向けた介護について理解させる。</li> <li>介護実践における介護予防やリハビリテーションの考え方について理解させる。</li> </ul>	15	サービス利用者主体の考え方に基づくこと。
6 7 8	(2) 介護福祉の担い手 ○介護の位置付けの歴史的変遷や介護の現代的意義、人間の尊厳を支える介護従事者としての専門性、介護実践のための多職種・地域社会との連携などについて理解させる。	1 介護従事者を取り巻く状況 2 介護従事者の役割 3 介護従事者の倫理 4 介護における連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護を取り巻く社会的状況の変化について理解させる。</li> <li>多様な介護ニーズに対応した介護従事者の在り方について考えさせる。</li> <li>介護従事者の果たすべき役割と機能について理解させる。</li> <li>人間としての尊厳の保持やサービス利用者のプライバシーの保護などを取り上げ、介護従事者として必要な倫理について理解させる。</li> <li>多職種連携による介護の在り方とその必要性や意義について理解させる。</li> <li>介護に関する社会資源や介護と地域社会とのかかわりについて理解させる。</li> </ul>	15	介護従事者としての職業観の基盤を育成すること。
8 9 10 11 12	(3) 介護を必要とする人の理解と介護 ○介護を必要とする高齢者や障害者などについて、生活の具体的な状況と介護ニーズを取り上げ、それぞれに応じた介護福祉サービスの概要やそのサービスが提供される場の特性などについて理解させる。	1 介護を必要とする人と生活環境 2 高齢者の生活と介護 ※2 3 障害者の生活と介護 4 介護福祉サービスの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の多様性や個性について理解させる。</li> <li>介護を必要とする人と家族や地域など生活環境について考えさせる。</li> <li>高齢者の生活に関する課題やニーズについて理解させる。</li> <li>高齢者を支えるための介護の在り方について考えさせる。</li> <li>障害児も含め障害者の生活に関する課題やニーズについて理解させる。</li> <li>障害者を支えるための介護の在り方について考えさせる。</li> <li>介護福祉サービスの具体的な内容や利用方法について理解させる。</li> </ul>	30	具体的な事例を通して、介護福祉サービスの概要を取り上げること。
1 2 3	(4) 介護における安全確保と危機管理 ○介護における安全確保と事故防止や感染対策などについて理解させるとともに、介護従事者の心身の健康管理の重要性についても理解させる。	1 介護における安全確保と事故対策 2 感染対策 3 介護従事者の健康管理 ※3	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故を回避するためにはサービス利用者とその生活環境に対する観察が重要であることを理解させる。</li> <li>事故防止のための具体的な対策や組織的な対応について理解させる。</li> <li>感染予防の意義と必要性について理解させる。</li> <li>感染対策に対する基礎的な知識と技術を習得させる。</li> <li>良質な介護福祉サービスを提供するためには、介護従事者の心身の健康が重要であることについて理解させる。</li> <li>快適な職場環境の形成を促進する労働安全衛生について理解させる。</li> </ul>	10	介護における安全を確保するための対策や技法を理解させること。

※1～3は、言語活動を充実する学習指導の実践例として、次頁以降で説明する。

## 2 言語活動を充実する学習指導の実践例

### (1) グループワーク（「福祉」とは何か？）…※1

「介護の意義と役割」の「1 尊厳を支える介護」の導入として、介護に対する一人ひとりの考えを確認するために、グループワークを実施する。グループワークでは、グループで話し合うことを通して、他者の意見を尊重しながら自らの意見を検討・分析することができる力を育成する。

- 単元 (1) 介護の意義と役割 1 尊厳を支える介護
- 本時の目標 グループワークを通して、自分の意見を相手に伝えるとともに、相手の意見を聴いた上で自分の意見をまとめ、グループでの意見を作り上げることができる。
- 学習の流れ（1・2時間目／全15時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 [観点]
1 福祉に関する内容をワークシートに記載する。	・ 思いつきなどに関しても、自分の大切な意見であることに気づかせ、表現させる。	・ シートの内容について真剣に取り組んでいる。[関心・意欲・態度]
2 グループ内で意見交換をする。	・ <u>自分の意見との相違点を特に注意して聞き取らせる。</u>	・ 積極的に意見を出し合い、まとめることができる。[思考・判断・表現]
3 グループ内の意見をまとめる。	・ <u>一部の意見に偏らず、グループ内全員の意見を丁寧に確認させる。</u>	・ グループの発表内容を理解し、疑問を持つことができる。[思考・判断・表現]
4 グループ内でまとめた意見を発表する。	・ <u>自分たちのグループとの相違点を見つけられるように発表を聞かせる。</u>	
5 本時のまとめと次時の予告	・ 各自が本時の学習目標に対する取組状況を評価する。 ・ 次時まで、次回のシートを学習してくることを伝える。	

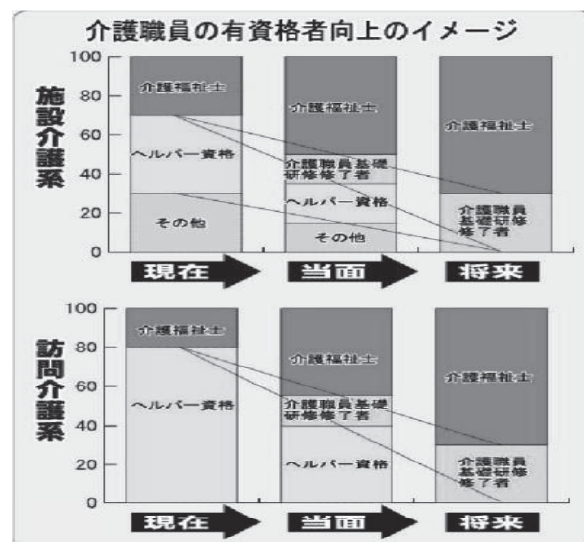
※ ~~~~線は言語活動に関わる留意事項である。

## Topic

### 【介護員養成研修事業の今後】

- ・ 基礎研修は、実務者研修（450時間）に一本化される予定となっている。
- ・ 1級課程は、平成24年度に介護職員基礎研修に一本化される予定となっている。
- ・ 2級課程は、初任者研修（仮称）として位置付けられる予定となっている。

※ 3級課程は、平成20年度末で終了している。



(2) 施設利用者との交流活動…※ 2

「介護を必要とする人の理解と介護」の「2 高齢者の生活と介護」で、高齢者の生活に関する課題やニーズについて理解するため、施設利用者との交流活動を実施する。交流活動では、高齢者への聞き取り調査等を通して、異世代との信頼関係を構築できるコミュニケーション能力を育成する。

- 単元 (3) 介護を必要とする人の理解と介護 2 高齢者の生活と介護
- 本時の目標 近隣の高齢者福祉施設において、高齢者とのコミュニケーションを通して、高齢になることにより生じる生活上の変化を聞き取り、まとめることができる。
- 学習の流れ (1～5時間目/全10時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (観点)
1 施設訪問、聞き取り調査について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者福祉施設の方々に失礼のないよう身だしなみを整えさせる。</li> <li>・約束の時間に遅れることのないようゆとりを持って行動させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的に授業の準備を整えている。[関心・意欲・態度]</li> </ul>
2 高齢者福祉施設へ訪問し、聞き取り調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の顔合わせで、グループごとに1人ずつ趣向を凝らした自己紹介をして、高齢者に顔と名前を覚えてもらうよう工夫させる。</li> <li>・生育歴や生活環境等について<u>直接的に質問するのではなく、様々なコミュニケーションを通して、高齢による変化を調査させる。</u></li> <li>・<u>正しい敬語、態度等</u>で高齢者との関わりを持たせる。</li> <li>・高齢者が不快に思う質問は避け、マイナス面だけでなく、<u>プラス面にも目を向け質問させる。</u></li> <li>・学習活動の終わりの際には、感謝の気持ちを込めて挨拶させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ作りを協力して、積極的に取り組んでいる。[関心・意欲・態度]</li> <li>・高齢者の個別性に応じたコミュニケーション方法を考え、実践している。[思考・判断・表現]</li> <li>・グループの中で積極的に発言している。[思考・判断・表現]</li> <li>・高齢者の言葉を理解し、適切にメモを取っている。[技能][知識・理解]</li> <li>・高齢者への感謝を言葉で表している。[思考・判断・表現]</li> </ul>
3 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者とのやりとりを各自でワークシートにまとめさせ、その後グループごとに調査内容をコンピュータでまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢になることにより生じる生活上の変化について理解し、的確にまとめている。[技能][知識・理解]</li> </ul>
4 全体発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>他者へ調査内容が明確に伝わるように発表させる。</u></li> <li>・<u>自分たちのグループとの相違点をメモしながら発表を聞かせる。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点をまとめ、他者に伝わる工夫をした発表をしている。[思考・判断・表現]</li> </ul>
5 礼状の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者への礼状を作成させる。</li> </ul>	

※ ~~~~線は言語活動に関わる留意事項である。

(3) K J法を活用した取組（「介護」とは何か？）…※3

「介護福祉基礎」の学習のまとめとして、介護に求められる資質の理解を深めるために、K J法を活用した授業を実施する。K J法は、文化人類学者の川喜田二郎氏が発案した収束思考の手法であり、これを利用してグループ内の意見を段階的にまとめ、各自、発表することにより、自己を振り返る力を育成する。

- 単元 (4) 介護における安全確保と危機管理 3 介護従事者の健康管理
- 本時の目標 K J法を用いた授業を通して、1年間の学習のまとめとして自分たちの意見を集約し、グループでの意見を作り上げることができる。
- 学習の流れ（7～10時間目／全10時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 [観点]
1 カードを作る。	・ 1人5枚程度のカードを作成できるように、シートによる課題とする。（前時課題指示、テーマ；「介護に大切なものとは」）	・ シートの課題に真剣に取り組んでいる。[関心・意欲・態度]
2 カードを知る。	・ グループ内で司会を決めさせ、各メンバーが司会に協力するようにさせる。 ・ <u>自分のカードを他のメンバーに見せながら、自分の考えを説明させる。</u>	・ 自分の作成してきたカードの内容について、説明することができる。[思考・判断・表現]
3 カードを集める。	・ 全てのカードを確認した後、関連性の高いカードを集め、カードのグループを作らせる。	・ 共同しながらグループ作業を行うことができる。[技能]
4 タイトルをつける。	・ それぞれのカードのグループにタイトルをつけることにより、 <u>自分たちの出した意見を意識させる。</u>	・ 意見を出し合い、積極的にグループワークに参加し、意見をまとめて結論を導き出すことができる。[思考・判断・表現]
5 関連を考える。	・ 模造紙にタイトルを考えながらカードを広げ、全体の関連性を考えさせる。	
6 解決を考える。	・ 全体が見える位置から眺めて、自分たちの結論を導き出させる。その時、 <u>率直に話し合うようにさせる。</u>	
7 発表する。	・ <u>グループ内で話し合った内容を発表させる。</u> ・ <u>自分たちのグループとの相違点を見つけ、発表後に質問ができるようにメモを取りながら聞かせる。</u>	・ グループ発表の内容を理解し、自分たちのグループの振り返りができる。[思考・判断・表現]
8 本時のまとめ	・ 各自が各グループ発表を振り返り、取組状況を評価する。 ・ K J法を用いた授業を通して考え、気付いたことなどを含めて、レポートを完成させる。	

※ ~~~~線は言語活動に関わる留意事項である。